

## R5年度終始業式(10/2) 校長あいさつ

全校の皆さんおはようございます。

本日、終始業式にあたり、校長よりお話しをさせていただきます。

さて、9月末日をもって前期が終了しました。

前期は夏休みをはさんで105日の授業日がありましたが、皆さんにとってこの105日はどう過ごせたでしょうか？新しい事にチャレンジし、それまでの自分の殻から脱皮して成長できた人から、様々な理由から立ち止まっていた人まで、人の数だけ様々な出来事があった105日間であったと思います。皆さんのすべてを知ることは到底できませんが、その中でクラブ活動を中心に学校の歴史に残るような活躍ともいえる結果を残した個人やチームもあり大変うれしく思っています。

本日より、後期が始まります。3年生で残り80日、1・2年生で99日の登校日があります。普通の高校でしたら、学年ごと行事が異なるとともに進路や学習のねらいも異なるのですが、本校は「普通じゃないからオモシロイ」をキャッチフレーズとする総合学科ですので、全学年共通する教育上のねらいをもって諸活動が進められます。それは、1年生であったら「シオジリ学」。2年生であったら「キャリアプランニングでの総合研究に向けた準備」。3年生は3年間の学びの集大成ともいえる「総合研究のまとめと発表」があるということです。このことはまさに、今、日本の教育が大きく方向転換を図ろうとしている「探究的な学び」を深めて行くということです。このことは、今の2年生から始まった新学習指導要領に基づくものですが、さかのぼること約30年前から総合学科が作られた時、そのようなねらいを与えられていたことなのです。言い換えれば、ようやく時代が総合学科に近づいてきたとも言えます。

では、なぜ「探究」が必要なのかということについてお話しします。探究型学習とは、「正解を暗記する勉強法ではなく、自ら問いを立てて、課題を解決するために情報収集をし、みんなで意見を出し合い、解決へと導く能力を育てていく学習」のことを言います。このような学習が必要になってきた背景としては、社会の急激な変化があります。日本は1950年代より高度成長期となり、大量生産・大量消費の時代となりました。第二次世界大戦から復興した日本は、もたらされた平和を背景に経済発展を遂げました。人口も2000年に向けて急増し8000万人から2000年には約12700万人まで急増しました。わずか50年で人口が約1.5倍に増えました。そんな中、工業製品は日本国内はもちろんのこと、海外でもメイドインジャパンの品質の高さが評価され製品は飛ぶように売れに売れました。そんな大量生産大量消費の時代に求められた人材は、マニュアルを短時間で理解し長く記憶し続けるとともに、高度な作業をブレずに繰り返すことができる忍耐力のある人でした。これを学校の教育に当てはめると先に述べた「正解を暗記し、長時間にわたって勉強や作業を続けられる人材」となります。

そんな時代は終わりを告げようとしています。もう皆さんが何度も耳にしている「正解が1つではない。予測も解決も困難な時代いわゆるVUCAな時代」です。デジタル技術の革新により

AI・人口知能やVR・仮想現実によって高度な情報化社会がもたらされました。また地球温暖化に伴う気候変動や異常気象による自然災害、新型コロナウイルス感染症によるパンデミック、そしてウクライナへのロシアの侵攻に象徴されるゆらぐ安全保障。日本では、世界に例をみない少子高齢化の波、あと20年も経たない内に人口は1億人を切り、65歳以上の高齢者の占める割合は4割に近づこうとしています。そして、今一番危惧されているのが日本の有数な工業地帯を襲う南海トラフ地震です。今後40年間の内に90%の確率で発生すると言われていいます。このような激動の変化に対応する柔軟性と粘り強さをもつ国民を育成するために「探究型学習」が重要なのです。将来、皆さんが目の前に起こる出来事に対して自分以外の誰かにもたれ掛かって、「何とかなるだろう。誰かが解決してくれるだろう。」ではなく、困難に対してそれを自分事と捉え、解決の道筋を自分なりに考えて、他者と力を合わせて解決に向かう力を高校でそのきっかけを学び、卒業後生涯にわたり育て続けて欲しいと思います。

話は変わりますが、世界で最も幸福を感じている国民が多い国を知っていますか？

答えはヨーロッパの北の方、「森と湖の国 フィンランドです。」日本と同じ位の面積の国土に対して、人口は日本の20分の1である520万人程度の国です。ちょうど、北海道に住む人口と同じです。この国の長所を語るとき無くてはならないのは、サウナ好きな人が多い国ではなくて、所得税は75%と高いが、教育費・医療費は無料、つまりゆりかごから墓場までの手厚い社会保障を行っているという国です。かつては、世界的な大企業をもつ国でしたが今はそれもなく過大な利益と富をむさぼるような経済活動はみられません。したがって、長時間の残業もなく有給休暇日数は多く、通勤時間も少なめで、労働者は夕方4時には帰路につきます。このことも幸福度に繋がっている要因ですが、教育方針が先ほどから述べている「探究型学習を通して生徒の自主性や問題解決のサポートをする教育」であります。したがって、フィンランドの子どもたちは、幼いころから「自分で考える」という習慣が身につく、思考力や問題解決能力を高めています。このことが、手厚い社会保障制度と相まって、今の職業に自分が合わなくて失業しても、十分な失業手当を支給されるとともに失業中の職業訓練に対する保障も充実しているので、何度もやり直せて、新たな職業で働き続けられるという雰囲気になっているそうです。経済大国・お金持ちが多い国でなくても国民が幸せでいられる国に日本もなれたらなと思います。

私は、少子高齢化と人口減少をマイナスと考えるのではなく、日本そのものが「いい形で縮んでいくチャンスではないか」と考えたいと思います。そんな未来の社会を担っていくのは紛れもなく皆さんです。是非、前向きに「探究型学習」に取り組んでください。

最後に、感染症対策についての引き続きのお願いです。休み明け校内の感染者数は急増しました。最近は大分収まってきましたが、家庭内での感染が相変わらず続いている状況です。普段と違う体調の場合は、ためらわず学校を休んでください。また、換気・手洗い等の基本的な感染対策を継続してください。特に、部室での飲食は集団感染のきっかけになりますのでしないようにしてください。3年生は希望進路実現のための試験、2年生は研修旅行と集団感染が起こると大きな影響をうける取組が間近にありますので、本日より1ヶ月は「感染防止対策

徹底強化キャンペーン」を実施します。是非、協力をお願いします。

以上、校長からの終始業式でのお話とします。